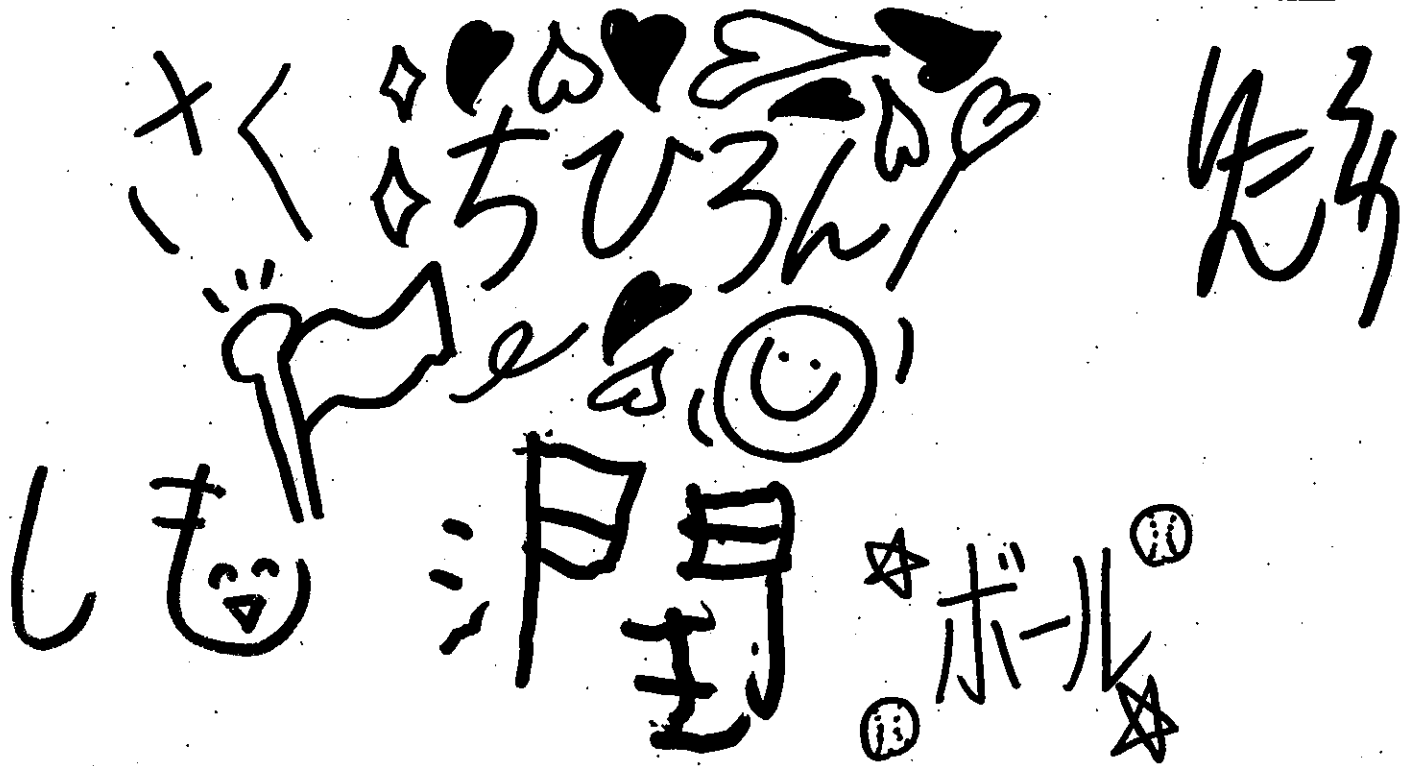


テーマ：

健全者と障がい者が交流できるイベントについて



グループ名：

&CHAIN

メンバー：

福田 千尋 下川真鈴 川口シゲ
二見啓太 橋村 朔 森本凜太郎

提案の理由（今の状況と課題）：

障がい者の気持ちを理解するためには、障がい者と接する機会が必要です。しかし、現状では充分ではありません。そこで、障がい者と健常者が共に感じられるイベントを提案します。

健常者と障がい者が関わることで会話が生まれ、障がい者を身近に感じられ、障がい者を特別あつかいすることなく、対等に接することができるようになるからです。また、障がい者が使っているものを体験することで、より障がい者の気持ちを理解でき、今後手助けしやすくなるからです。

提案：

私達は、障がいの有無に関わらずみんなが楽しめるような様々なブースを組み合わせたイベントを提案します。

例えば、点字や手話体験、アイマスクをつけて歩き回る視覚障がい者体験、車いすポートボールや車いす競争などの車いす体験ができるブースがあればよいと思います。

いつ、どこで、対象、ブースの内容の4つの観点に分けて説明していきたいと思います。

いつ開催するのは、比較的人が集まりやすい夏休みなどの長期休みにしたいです。

次に、どこで開催するのは、段差がなくエレベーターもある公民館を希望します。

そして、対象ですが、特に対象年齢は定めませんが、障がい者も健常者も積極的に参加してほしいです。

最後にブース内容ですが、障がいの有無に関わらずみんな協力してできるブースにしたいです。

提案を実現するために、わたしたちができること：

この提案を実現するために、ぼくたちができることは大きく分けて4つあると考えています。

まず1つ目は、内容を具体的にしていくことです。どういうことかという、もしこのようなイベントをすることになったら、提案者のぼくたちが具体的な計画を提案することで、イベントの準備期間を短くすることができます。

次に2つ目は、考えた企画を自分たちが体験することです。なぜ体験するかというと、当日にお客さんが来てもトラブルなどがおこらないように検証するためです。もし、検証してトラブルがおきたら、その部分をもう一度考え直せばいいと思います。

3つ目は、当日までにチラシのデザインを考えたり、ポスターを貼ったりすることです。チラシを配る場所は、人が多い駅や学校、公民館、市役所、スポーツセンター、フレミラ、図書館などの公共施設です。このような場所でチラシを配ることで、イベントにもたくさんの方が来てくれると思います。

4つ目は、前日や当日のボランティアをすることです。例えば、イスをならべたり、テントをたてたりする会場の準備や、当日のインフォメーションや放送、ブースの手伝いをする運営スタッフです。また、自分たちで集めることができる物などは持ってきたりすると、少しでも役に立てると思います。

こうすることで、障がい者の気持ちを理解し、障がい者と接することができるイベントが実現できると思います。